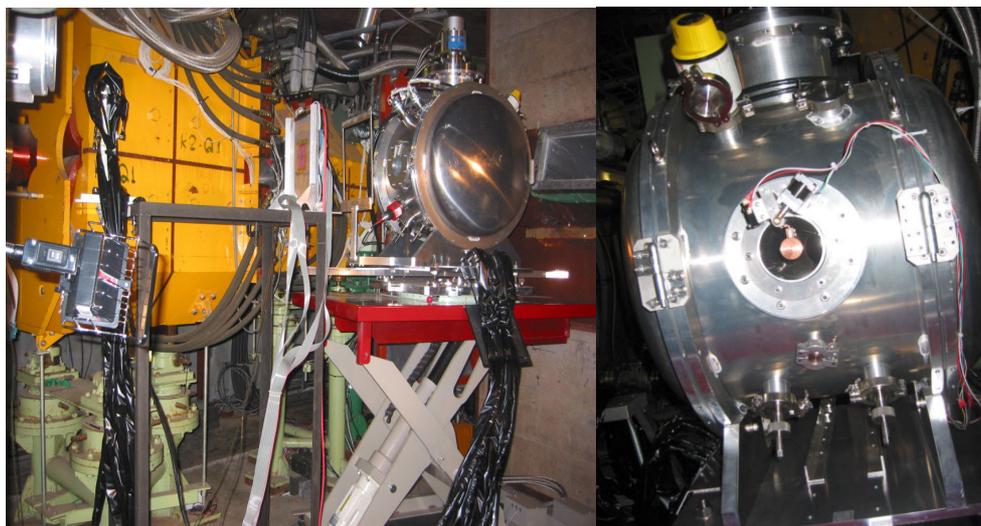


3 トラブル

- コネクトエンド（THK）球面座金を使用した傾斜自在の連結継ぎ手の製造中止：代替品のリンクボール（THK）を使用する。部品の追加、断熱支持棒（G-10）新規製作。当初の支持棒は引張試験片として使用した。これにより、G-10の強度が十分アブソーバーの重量に耐えることを確認することが出来た。
- 振れ止めがアブソーバーまでとどかない：断面図だけを見て部品図を書いたがアブソーバーは円筒形であり振れ止め位置が角度方向にずれていることを見落とす。当て金を使い振れ止めをする。
- 2種類の真空リーク：1つは溶接リーク2回内側から修理をするがリーク止まらない、外側より溶接する。修理に2日かかるが溶接部リーク無しを確認、組立て完了後に再度リークテスト、KFフランジ部よりリーク“O”リングに手袋の綿繊維が付着したのが原因、リーク無しを確認、のちに重要な意味を持つことになる。
- 実験開始直後にチェンバー内圧上昇 まとめ

4 設置

設置場所は放射線作業領域内にあり1日の作業時間に制限があった。



ビームラインに設置した PRISM ソレノイドモックアップシステム（写真1）

5 まとめ

大小トラブルが発生したが、何と云っても真空リークが重要な割合を占めることになる。溶接部の真空リークが無いことを時間をかけて検査したこともあり、実験開始直後の内圧上昇は、チェンバー内のアウトガスによるものと、即座に判断がつき迅速な対応が取れた。

また、カタログ製品の突然のはいばんに遭遇したのも今回が初めてのことであり、既製品のチェックは設計の段階で確認する必要がある。

さらに、製作図面のチェックの重要性を身を持って感じた幸いです。製作に追われ検図に時間をとれず後々に付けが回ることになる。

最後に、アブソーバー、ターゲット移動機構、架台と工作センターの皆様に手助け頂き期日どおりに設置することが出来、無事実験が終了したことを報告します。